

4 土しゃ災害

指導のねらい

- 土砂災害の前ぶれを理解し、普段と違う変化に気づき、早めの避難ができるようになる。
- 土砂災害の恐れのある地域をハザードマップで調べることができることを理解する。
- 安全な場所へ避難することができない場合、垂直避難ができるようになる。

■学習指導要領

生活科

第1学年及び第2学年の内容

〔身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〕

- (6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

特別活動

学級活動の内容

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害などから身を
守り安全に行動すること。

■授業展開例(15分)

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	副読本該当項目
0	家庭学習で、p.18～19を読んで、土砂災害の種類や前ぶれを理解し、土砂災害から身を守るためには、どんな行動をとらなければならないのかを考え、まとめておく。	<ul style="list-style-type: none"> ●QRコードから動画を見せる。 ●p.18～19を読んで、土砂災害から身を守るために、どんな行動をとるべきか考えさせ、まとめておくように、事前にワークシートを提示しておく。 	●p.18-19「土しゃ災害」
3	1 p.18～19のイラストを見て、本日の学習内容に興味を持つ。	●大雨や台風が来ると、土砂災害が起きやすくなることを理解させる。	●p.18-19「土しゃ災害」
9	2 土砂災害が起きたとき、どんな行動をとるべきか、考えてきたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ●発表後、副読本を見ながら説明をする。 ●説明をする際は、児童の意見を取り入れながら行う。 例:「〇〇さんの意見のように～…」「〇〇さんの意見も正しい。さらにこうすると、もっと安全」など。 	●p.20「土しゃ災害から身を守るためには」
3	3 本学習を振り返る。		

■補足説明

㊤土砂災害の発生件数

令和2年に全国で発生した土砂災害は1,319件でした。過去の発生件数を見てみると、豪雨や大地震が起きた年は特に発生件数が増えています。

令和3年は、8月31日時点で848件の土砂災害が発生しています。特に静岡県熱海市では2kmにわたる大規模な土石流が発生しました。

※29ページ⑦のURLをご参照ください。

㊤土砂災害の映像

※29ページ⑧のURLをご参照ください。

㊤QRコード

タブレットなどでQRコードを読み込むことで「どしゃさいがいのどうが」のリンクから、動画を閲覧することができます。動画を見て気分が悪くなった場合は、先生に知らせるよう注意喚起をしましょう。

動画時間:10分00秒 出典元:NHK for School

㊤土砂災害の前ぶれ

土砂災害の種類によって、さまざまな前ぶれが起こります。以下のような前ぶれがあります。記載がないことでも、普段とは違う異変を感じたら、すぐに避難することを強調しましょう。



4 ど さいがい 土しや災害

おおあめ 大雨がふった次の日、がけがくずれ落ちたよ。 どうしてだろう？



山やかげのような所に大雨がふると、地面がやわらかくなって、くずれたり、すべりやすくなるんだね。

山の土や石が、大雨の水と一緒によれ落ちてくることもあるんじや。

A B

ど さいがい 土しや災害のしるし



雨がしみこんで、地面がやわらかくなり、がけがくずれしてしまうことです。



雨がしみこんで、やわらかくなった地面が、天きなかつたまま、すべり落ちるということです。

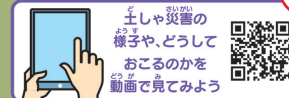


山の土や石、石が長くくたつた雨と一緒によれ落ちてくることです。

れいわ ねん ねん しずおかけんあた み し ど さいがい 令和3年(2021年)静岡県熱海市の土しや災害



(画像提供: 毎日新聞社/アフロ)



C

ど さいがい 土しや災害から 身を守るためには

土しや災害がいつおきるのか、わかる方法ってあるのかな？

ど さいがい まえ 土しや災害の前ぶれ

D

土しや災害がおきる前、いつもとはちがうことがおきる場合があります。たとえば…



●地面から水がふき出す。



●地面にひびが入る。

ここに書いていない前ぶれがおきることもあるよ。



はやめ 早目にひなんしよう

外をよくかんさつして、きけんを感じたらすぐにひなんしましょう。

あめ 雨がやんだ後も注意

雨がやんだ後も土の中に水分がふくまれているため、土しや災害のきけんはまだあります。



E

ど さいがい 土しや災害できけんなこと

ど さいがい 土しや災害でどんなきけんなことがおきるでしょうか。石のイラストをみながら考えてみましょう。



F

G

H

- がけにひびが入る。
- 小石が落ちてくる。
- 建物や電柱、木が傾く。
- 地鳴り、山鳴りがする。
- 井戸や沢の水が濁る。
- 石のぶつかり合う音が聞こえる。
- どろくさいにおいがする。

※29ページ㉑のURLをご参照ください。

㉑台風と土砂災害

平成3年台風第17号と第19号の際、八女郡星野村（現、八女市星野村）や浮羽郡田主丸町（現、久留米市田主丸町）などで猛烈な暴風により、県内各地の山林で木が根本から倒れたり、途中から折れたりして、甚大な森林被害が出ました。このような森林被害が起こると、倒木が土砂などとともに押し流され、土石流の危険性がさらに増すことが考えられます。

㉒ハザードマップ

ハザードマップは各市町村のホームページに掲載されています（「〇〇〇（市町村名）ハザードマップ」で検索）。また、「重ねるハザードマップ」では、洪水、土砂災害、津波、道路防災情報を調べることができます。

※29ページ㉑のURLをご参照ください。


板書例

めあて


土しゃ災害がおきそうなときに どうしたらいいか考えよう。

3歳から
**土しゃ災害から
身を守るために**

土しゃ災害がいつおきるかわからないから、
土しゃ災害の前ぶれを知ることが大切です。たとえば、



●斜面から土や石が落ちる。



●斜面に土が崩れる。

ここに書いていい
絵をかきなさい。

目をひらなさいよう
おきよくかみきりして、
きけんを減じたらすくで
ひらなさいよう。

雨がやんだ後も注意
雨がやんだ後も土のまに
まがたかくまわれているため、
土しゃ災害のきけんは
まじります。

土しゃ災害できけんなこと

土しゃ災害で
ひらなさいんこと
おきなさいよう、
おのりや土をまきり
まじりなさいよう。

- ・雨がふったときや、台風が来たときは、土しゃ災害がおきるかもしれない考える。
→雨や台風の後には、晴れても気をつける。
- ・土しゃ災害の前ぶれを知る。
→いつもとちがうことに気づいたら早目にひなんする。

㉓土砂災害警戒区域の概要

「土砂災害警戒区域（イエローゾーン）」とは、土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生じる恐れがあると認められるエリアです。過去の土砂災害による土砂の到達範囲などを勘案して設定されています。ハザードマップで色が付いていない場所については、あくまで過去の土砂災害で土砂が到達しなかっただけで、今後も到達しないとは限りません。色が付いていない地域でも、100%安全であるわけではないことを強調しましょう。

土砂災害警戒区域の中でも、建築物に損害が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じる恐れがあると認められるエリアのことを「土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）」と言います。

㉔教職員がとるべき行動例

- 大雨や台風の後には授業日では、土砂災害の恐れがある場所には近づかないように特に厳しく注意しましょう。
- 小学校が土砂災害の恐れがある地域にある場合や、災害発生時の危険性がある場合は、児童たちを速やかに斜面から離れた上階の部屋に避難させましょう。

5 生きるために考えよう

指導のねらい

- 学校内にある防災設備の役割を理解する。
- 避難所での過ごし方を理解し、新型コロナウイルスなどの感染症対策に努めることができるようになる。
- ワークを通して、災害に備えることができるようになる。

■学習指導要領

生活科

第1学年及び第2学年の内容

〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕

- (1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活はさまざまな人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
- (2) 家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。
- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活はさまざまな人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

社会科

第3学年の内容

- (3) 地域の安全を守る働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (イ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力などを身に付けること。
 - (ア) 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動をとらえ、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。

特別活動

学級活動の内容

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
 - ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害などから身を守り安全に行動すること。

■授業展開例(15分)

時間(分)	学習活動	指導上の留意点	副読本該当項目
0	家庭学習で、「ひなんするとき気をつけること」「もしものときに持っていくもの」「ひなん所までの地図を書いてみよう」「ひなんするときのルールをきめよう」「めざせ！防災はかせ」を考えたり調べたりして、まとめる。	●家庭学習で、「ひなんするとき気をつけること」「もしものときに持っていくもの」「ひなん所までの地図を書いてみよう」「ひなんするときのルールをきめよう」「めざせ！防災はかせ」をまとめさせておく。	●p.23「ひなんするとき気をつけること」 ●p.25「もしものときに持っていくもの」 ●p.26「ひなん所までの地図を書いてみよう」 ●p.27「ひなんするときのルールをきめよう」 ●p.29「めざせ！防災はかせ」
2	1 これまでの学習を振り返り、本日の学習課題を把握する。	●どんな災害のときに、どんなことに気を付けなければならなかったのか、と発問する。	
10			
3	2 本学習を振り返る。		

※赤枠の中は下記選択A～Dよりお選びください。

選択A【「けいかいレベル4で、みんなひなん」「ひなんするとき気をつけること」】

5	2 副読本を読み、警戒レベルを確認する。	●警戒レベル4になるまでは避難しなくて良いという意味ではなく、危険を感じたら、警戒レベル4になっていなくても、避難することの重要性を理解させる。 ●警戒レベル5は既に災害が発生しているので、もし避難所へ行くことができなかつた場合は、無理に避難所へ行くのではなく、垂直避難するなど、命を守るための最善の行動をとることを理解させる。	●p.22「けいかいレベル4で、みんなひなん」
5	3 副読本を読み、避難時の注意点を確認する。	●注意を守らなければどのような危険があるか、意見を出し発表させる。	●p.23「ひなんするとき気をつけること」

選択B【「ひなん所にいったとき気をつけること」「もしものときに持っていくもの」】

5	2 副読本を読んで、避難所での過ごし方について理解する。なぜルールを守らなければならないのか発表する。	●取り上げているルールについて、なぜそうしなければならないのか発表させる。	●p.24「ひなん所にいったとき気をつけること」
---	---	---------------------------------------	--------------------------

5	3 家庭学習で取り組んできた「もしものときに持っていくもの」についてグループで説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅で各自、持出品をリュックにまとめて、持って来てもらう。 ●家庭や個人によって準備する物は違って来るので、持ち出す物が違ってもおかしくないことを強調する。 	●p.25「もしものときに持っていくもの」
---	---	--	-----------------------

選択C【「ひなん所までの地図を書いてみよう」「ひなんするときのルールをきめよう】

5	2 家庭学習で取り組んできた「ひなん所までの地図を書いてみよう」について、地図を書いてみた感想について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ●手が拳がらないときは、「おうちの人と、どんな話をしましたか?」「ひなん所に行くまでに、あぶないなと思った道はありましたか?」などの声掛けをして発言を促す。 	●p.26「ひなん所までの地図を書いてみよう」
5	3 家庭学習で取り組んできた「ひなんするときのルールをきめよう」についてグループで説明し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ●家族とどんな話をし、なぜこのルールに決めたかについて説明させる。 ●ルールは家庭によって異なるので、全てが正解であることを強調する。 	●p.27「ひなんするときのルールをきめよう」

選択D【「防災くん練にさんかしよう」「風水害について思ったこと」「めざせ! 防災はかせ】

2	2 地域の防災訓練に参加するメリットについて理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の防災訓練は回覧板などでお知らせがあるので、保護者に確認するように促す。 ●地域の防災訓練は強制参加するものではないが、以下のようなメリットがあることを伝える。 ●避難の練習ができるので、非常時にどんな行動をとればいいのか分かる。 ●地域の人と顔見知りになるので、非常時に助けに来てもらえることがある。 ●地域の人と顔見知りになるので、非常時に誰に頼ればいいのか分かる。 	●p.26「ひなん所までの地図を書いてみよう」
5	3 家庭学習で取り組んできた「めざせ! 防災はかせ」の正解を確認し、非常時の行動について再確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ●クイズに正解できただけで終わりにせず、非常時に行動ができてこそ意味があることを強調する。 	
3	4 本学習で学んだことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ●時間があれば、発表させる。 	●p.28「風水害について思ったこと」